

修学旅行  
について  
考えました。

公認心理師/社会福祉士  
発行 堀川 重 敏  
放課後等デイサービス/児童発達支援

第15巻 第18号

# ふたたび 宿題のこと



記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com

前(17)号に引き続き「宿題」について  
書かせていただきます。

## ☆5

学校での授業が、工場制手工場的な**一斉学習作業**になるのは、一クラスの人数を考えると仕方ないことです。

それが日清戦争を機に、世界に負けない製品を大量生産するために、職人を一か所に集めて同じ設備と材料を与えた頃の手法であり、さらには地方の労働力を集めて働かせるため全国の学校に取り入れられたやり方なのです。

## ★6

さて、伊万里・大河内山で風鈴まつりが始まりました。

有田も伊万里も世界的な焼き物の町です。たくさんの窯元と製陶工場があって、芸術品から日用雑貨まで、さまざまな物を焼いています。

友人のひとりが有田の窯元ですが、彼が創るコーヒーカップは一個五千、六千円です。手作りの製品はこれくらいの値段で、量産品の中には数百円で売られるものもあります。カップとしては、どちらも同じ性能です。

## ☆7

少子化が進む中、労働力が足りず、技能修習制度によって非常に多くのアジア人が働いてくれています。

彼らは作業や仕事に必要な日本語を話しながら、自分たちの文化を守って、日本人の代わりに働き、技能とお金を持って帰国して行きます。

## ★8

近い将来、現在の仕事の半分以上はロボットとAIにとって代われ、新しい仕事と考え出されている時代に、基本的には明治時代と同じ**性能**を求められています。

学校で学ぶ内容は社会に出て働くために必要な内容です。

学びたくてサッカー、バスケット、ダンス、スケボーあるいはプログラミングを習っている子どもたちが居ます。

もしかすると宿題をする時間が、このような子どもたちの力を伸ばすための時間を奪っているかも知れません。



一連のイラストは TOMO さんという方からお借りしています。